

# 環境会計

事業活動における環境保全のためのコストとその活動による効果を定量的に把握するのが環境会計です。広島ガスでは、環境に関わるコストと効果を、環境省の「環境会計システムの確立に向けて〈2000年報告〉」をベースにした(社)日本ガス協会の「都市ガス事業における環境会計導入の手引き」(2002年10月改定)に基づき集計しました。

## 2010年度集計結果

### ●環境保全コスト

(単位:百万円)

環境保全コスト項目			投資額		費用額	
主な内容(例)			2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
自 社 業 務	公害防止	大気汚染、水質汚濁、騒音等の防止のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等	0	5	13	10
	地球環境保全	省エネルギー、エネルギー有効利用、オゾン層保護等のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等(主要内容:廿日市工場ガスコージェネレーション稼働)	157	35	96	55
	資源循環	掘削残土削減、再資源化、廃棄物管理等のための設備投資額、維持管理費、減価償却費、人件費等	2	8	64	63
	環境マネジメント	グリーン購入、環境教育、EMS構築、環境対策組織等のコスト	0	0	23	23
	その他	工場立地法や条例に基づく工場の緑化等(主要内容:旧海田工場・旧阿賀工場土壌浄化工事)	3	0	47	49
お客さま先	環境R&D	環境負荷低減技術、高効率機器・システム開発のための研究開発コスト	5	15	36	36
社会貢献活動	自主緑化、景観保持、自然保護、美化地域の環境活動支援、環境広告、環境情報公表等	5	0	23	23	
合 計			172	64	302	260

※2010年度費用額のうち減価償却費は、63百万円計上されています。 ※環境R&Dとは、研究開発コストのうち環境保全のためのものです。  
 ※算定期間:2010年4月~2011年3月 算定範囲:広島ガス株式会社

- ①投資額は、2009年度が本社ビル改装等により大きく増加したため、昨年と比べ減少しました。
- ②費用は、昨年度発生した特別償却(LED照明設備、太陽光発電設備)が発生しなかったため、昨年度より減少しました。

### ●効果

#### ■環境負荷水準

環境負荷水準	2009年度	2010年度
NOx原単位(製造) (mg/m <sup>3</sup> )	41	45
CO <sub>2</sub> 原単位(製造) (g-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> )	47	48
CO <sub>2</sub> 原単位(オフィス) (g-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup> )	6	6
掘削発生土外部排出量 (千t)	5	3
産業廃棄物発生量 (t)	184	209
一般廃棄物発生量 (t)	90	76
(参考値) お客さま先でのCO <sub>2</sub> 抑制量 (千t-CO <sub>2</sub> )	188	194

#### ■企業内経済効果

(単位:百万円)

経済効果	2009年度	2010年度
掘削発生土外部排出量削減に伴う経費削減額	265	274
有価物の売却額	0	0
その他 (燃料ガス使用量削減による経費削減額)	148	162
その他 (電力使用量削減による経費削減額)	0	1
合 計	413	436

#### ■全社設備投資額における環境設備投資額比率

	2009年度	2010年度
全社設備投資額 (百万円)	3,708	3,556
環境設備投資額比率 (%)	4.6	1.8

#### ■全社総売上高における環境費用額比率

	2009年度	2010年度
全社総売上高 (百万円)	51,129	54,500
環境費用額比率 (%)	0.6	0.5

- ①昨年度に引き続き、ガス導管工事で排出された土砂の再資源化の促進等により、掘削発生土の外部排出を抑えることができ、経費削減を果たすことができました。
- ②その他は、太陽光発電やLED照明の採用による購入電力削減分です。

## 環境効率について

当社は、環境保全活動の取り組みの評価の一つとして、企業活動と環境保全がバランスし両立している状況を把握する指標である環境効率を採用しています。

2010年度の環境効率は、前年度並みとなり、環境への取り組みは順調であると評価できます。

#### ■環境効率試算結果

項目	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
ガス販売量 (百万m <sup>3</sup> )	453	501	477	501	517
CO <sub>2</sub> 発生量(製造) (千t-CO <sub>2</sub> )	20	21	20	21	22
CO <sub>2</sub> 発生量(オフィス) (千t-CO <sub>2</sub> )	3	3	3	3	3
環境効率 (m <sup>3</sup> /kg-CO <sub>2</sub> )	19.5	20.5	20.6	20.3	20.3

※1 2004年度より天然ガスを燃料としたガスコージェネレーションシステムを稼働しましたが、経営指標をガス販売量に限定しているため、電力発電(売電用)に伴い発生するCO<sub>2</sub>量は除いています。  
 ※2 購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数は2008年度までは、0.555(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用しています。2009年度以降は、中国電力の実排出係数を使用しています。  
 ※3 四捨五入の関係で、表示と計算値に差異が生じています。

#### ■環境効率

